



# 佐伯史談

第六十八号

「郷土史研究」誌  
通算第百十号

昭和四十八年五月十日

## 佐伯史談会

事務所 佐伯市大字稻垣字龍護寺 羽柴方

提唱

### 史談会も新学期

― 生目神社参拝のレポートをそえて ―

佐伯史談会  
会長 高木嘉吉

学校では、新年度を迎えて入学式が行われた。幼稚園・小学校・中学校・高等学校と、それぞれに希望を抱いて入学する子供の可憐な姿や、付添の母親の晴れやかな姿は、四月のはなやかな風物詩である。

私達の史談会も新年度を迎え夫つもりで、気分を新にして力強く、楽しく前進したい。時は春、春は四月、自然は花から若葉、若葉から青葉と推移して、大生命が躍動している。

史談会が、会員あわせて四百を数える大世帯に成長したことは同慶の次第である。会員が年齢、性別、職業、生活環境の点で、多種多様であることは当然である。その各々独自の立場で、意義ある日々を持つてほしいといふのが、私のかねての念願である。

会員は郷土の歴史に興味を持ち、郷土の自然と文化を

愛し、その保護・顕彰を願うことにおいてみな共通している。この気持をささやかにゆかでも日々の生活に生かして行きたい。

たとえば、佐伯史談会入手して読む。そのなかで近所の土地を舞台にした記事が載っている。読み流しにせず、早速出掛けて調査する。記事の通りであることもあろうが、記事と実地が合致しないこともある。さてと興味を持ち研究を進める、これも楽しいことである。

金石文など正確に活字にすることはおぼつかしいものである。書写の過程で読みまちがいや誤写がありがちだし、印刷の過程で誤植が起きるからである。誤字があるという意味が通ぜず、困ることになる。調査は一人でもよい

#### 本号の内容

- 〓 史談会も新学期(高木嘉吉)……一
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……二
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……三
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……四
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……五
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……六
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……七
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……八
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……九
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……一〇
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……一一
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……一二
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……一三
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……一四
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……一五
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……一六
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……一七
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……一八
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……一九
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……二〇
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……二一
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……二二
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……二三
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……二四
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……二五
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……二六
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……二七
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……二八
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……二九
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……三〇
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……三一
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……三二
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……三三
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……三四
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……三五
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……三六
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……三七
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……三八
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……三九
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……四〇
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……四一
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……四二
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……四三
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……四四
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……四五
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……四六
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……四七
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……四八
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……四九
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……五〇
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……五一
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……五二
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……五三
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……五四
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……五五
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……五六
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……五七
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……五八
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……五九
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……六〇
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……六一
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……六二
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……六三
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……六四
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……六五
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……六六
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……六七
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……六八
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……六九
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……七〇
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……七一
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……七二
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……七三
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……七四
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……七五
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……七六
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……七七
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……七八
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……七九
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……八〇
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……八一
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……八二
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……八三
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……八四
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……八五
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……八六
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……八七
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……八八
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……八九
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……九〇
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……九一
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……九二
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……九三
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……九四
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……九五
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……九六
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……九七
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……九八
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……九九
- 〓 龍護寺の歴史(佐伯史談会)……一〇〇

が、二、三の気の合つた友と一しよに出掛けると、お互いに裨益することになつて一層よい。

それから、今年は無近なコースを設定して、探訪することにしてるので、その時及都合して参加していただきたい。探訪の一日は

○ 何人かと行を共にして話をすることができる。

○ 目新しい自然に接する。

○ 歩いて、よい空気を吸うて、健康の増進ができる。

などの利益を参加者にもたらすものと信じている。

古い会員には、どのコースもすでに何回か行った所になると思うが、

○ 鑑賞は回を重ねるごとに深くなる。

○ よいものは何度見てもよい。

○ 忘れていたものを再認する。

○ 以前免許がなかつたものを改めて認識する。

などの意義があると思うので、ふるって参加願いたい。

なお見学踏査の場所を自分で設定して、機会を待つことも大事なことである。

私は去る三月の末に、宮崎市に一日の旅をした。これは子供達が私の古稀を祝つて色々してくれたのであるが、その一環として此の旅を計画したので、その好意を受けこの旅行であった。

家内と行き共にしたが、家内は宮崎は初めてであったので、宮崎神宮・平和台・子供の園・青島・サボテン園と観光コースを巡つた。みな曾遊の地であるが、久し振りで楽しかった。

それから此の機会にと、かねて見学を念じていた生目神社に参詣した。生目神社は宮崎駅から六料の西郊にあ

り、宮崎市から小林、都城、高岡等に行くバスが通つていて、バス停生目に下車して、二料位の距離である。

型の通り参拝を終つたが、ここでも実地に確かめることが大切であると痛感した。村の氏神ぐらゐの規模を想像してはいたが、境内が広く社殿が宏壮なのに一驚した。

それから社務所で由緒を記した印刷物をもらつて、一読したが、これも私の想像とはちがつていて、認識を改めさせられた。

私は伝説の人、悪七兵衛景清が平家没落の後、頼朝をつけねらつたが望みを達することが出来ずに、頼朝への怨念をたつため、自ら両眼をえぐつて盲となり、日河に流されて宮崎の生目の地に落ちつき、行いすまして生を終えた。景清は一時の激情にまかせて自ら盲となつたが、後に訪ねてきた娘の姿を見ることの出来なかつたこともあつて、身の不自由さかこち、眼の悪い者への同情から、霊験を得て眼疾を救つた。

景清の死後、里人はその霊験を崇めて神に祀り、生目神社を創立したが、霊験あらたかたが今に至るも参詣者が跡をたたない。おおよそこのように想像してはいたのであるが、由緒書によると、古い記録は兵火で焼失してはつきりしたことは分らないが、天喜四年(一〇五六)にはすでに此の地に八幡社が建立されて、生目八幡宮と称し、眼疾に靈験ありとして、遠近に尊崇されていたとあり、祭神は、

(主祭神) 兵衛和氣命(心神天皇)

藤原景清公

(御相殿) 考火瓊々杵尊 考火々出見尊

稚茅葺不合尊

となつてゐる。これによると景清は、死後村人によつて生目神社に合祀されたものと思われる。(おわり)